

同志社大学

同志社社史資料センター報



第11号
2014年度

1. 巻頭言：2014年度の報告にあたって
2. コラム：京都との縁 ～ 2014年を振り返って
3. 資料業務
4. 展示
5. 公開講演会・シンポジウム
6. 研究活動
7. 第172回新島襄生誕記念会
8. ハリス理化学館同志社ギャラリー
9. 新島旧邸
10. 委員会

2014年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所 長 小林 丈広

NHK大河ドラマ「八重の桜」が終了して、当センターには静けさと日常的な脈動が戻ってきたかと思う矢先に思いがけない事件が起こった。「伝山本覚馬所用長巻」事件である。「八重の桜」放映に因んで各地で展示会が催され、そこに出席した上記の長巻が実は山本覚馬のものではなかった、と判明した。これに関しては7月に主要新聞各社から取材を受け、事の顛末とともに謝罪した。ここで改めてお詫び申し上げたい。

2014年は当センター創立10周年にあたっていた。前年11月29日に開館したハリス理化学館同志社ギャラリーにおける展示を軌道に乗せることが最初の課題であった。4月12日から5月25日までは第2回企画展として「森浩一の考古学―遺跡を共有する精神」が同志社大学歴史資料館主催で展示された。遺跡をこよなく愛し、多くの人々と調査結果を共有することを目指した森浩一の軌跡を辿る展示であった。6月5日から22日までは新島襄海外渡航150周年を記念した第3回企画展として「新島襄の『蓬桑』の志」が展示された。続いて第4回企画展として7月15日から8月31日まで「同志社と絵画―キャンバスに広がる同志社キャンパス」が展示された。2014年度の最後を飾る企画展は「同志社と文学」（10月15日～12月21日）であり、これに関連して作家の澤田瞳子氏を招いて公開講演会が開催された。

一方、「同志社の今」では、3月11日から6月29日まで「東日本大震災・原発事故から3年―福島現場を考える」と題して特別写真展が開催され、併せて福島民友新聞社の記者3人による連続講演会も開かれ、大きな反響を呼んだ。9月30日から11月2日までは「松陰寮50年～第2の故郷～」と題して松陰寮の50年の歴史を振り返る展示を行った。その他、12月にはアートビジネスを学ぶ経済学部学生が主催する「同志社大学アート・オークション STORY Vol.5」が開かれ、2015年2月には同志社女子大学の二瓶ゼミの卒業研究成果発表展が特別展示として開かれた。

また特筆すべきこととして、尹東柱没後70年を記念する巡回展が2月に開催され、併せて式典や高銀氏の講演会なども持たれた。韓国からも多くの来場者があった。

もちろん、当センターは本来の大学アーカイブズとしての業務、資料の収集・整理・保存にも時間的制約のなかで取り組んできた。今年は同志社創立140周年にあっており、様々な取り組みがなされると思うが、そのあとに控える150周年に向けてそろそろ動きだすべき時を迎えたと言うべきである。

京都との縁 ～ 2014年を振り返って

福島民友新聞社編集局長

菅野 篤

「日本国民とは何かを問うためにも来年3月から、同志社であの大災害のパネル展をしたいと思うんですが、どうでしょうか」。あと4カ月もたつと東日本大震災と東京電力福島第1原発事故から丸3年という大きな節目を迎えようとしていた2013（平成25）年11月、同志社大学同志社社史資料センター事務室の小枝弘和さんからこんな問い掛けがあった。その企画自体が意義深いのは即座に感じ取ったのはもちろんのこと、小枝さんからの申し出なら一も二もなく同意しなければならない理由があった。

福島県では大震災・原発事故以後、さまざまな困難が続くが、事故による直接の被害がほとんどなかった会津地方も「福島県」というくくりの中で見られ、農業や観光などの面での風評被害に悩まされている。そうした中にあって13年1月から、会津藩士の家に生まれ夫の新島襄とともに同志社を創設した山本（新島）八重の生涯を描いたNHK大河ドラマ「八重の桜」が放映された。苦しい状況にあった福島県や会津が全国的に注目されることになり、数少ない明るい話題となった。

福島民友新聞社は、この放送にちなみ会津を出て京都で人生を歩んだ八重の姿を伝える連載を小枝さんに依頼したところ、快く引き受けていただいた。通常、執筆者には薄謝を差し上げるが、小枝さんは「八重さんのことでお金を受け取るわけにはいかない」として無償での執筆となり、「京に咲く八重 息づく会津の心」と題した連載は同年4月から年末まで週1回、計40回続いた。福島県民にも知られていなかった新たな事実も紹介され、好評を得た。

そのような、ひとかたならぬ恩義のある小枝さんからの企画展の提案だった。以後手を携えて準備に汗、といいたいところだが、実はほとんど小枝さん任せにしてしまった。こちらは水素爆発した原発の映像を撮った福島中央テレビも加わるよう橋渡しをしたほかは、パネルにする写真のデータやその時々々を伝える福島民友新聞を送ったり、私も含めて3人の記者（福島民友新聞社報道部記者 小泉篤史、須田絢一）を関連の公開講演会の講師として送り込んだだけだった。小枝さんはじめ、準備に尽力していただいた方々には頭が上がらない。

「東日本大震災・原発事故から3年―福島現場を考える」と題した特別写真展は、ハリス理化学館同志社ギャラリー「同志社の今」の第2回特別陳列として、3年前に大震災が起きた3月11日に開幕した。同志社の学生がデザ



「3.11」以降の福島の現状や課題を伝えるために開かれた特別写真展（2014年3月11日、同志社大学）

インした大型ポスターやチラシは、趣旨を端的にアピールする秀作だった。6月29日までの82日間に訪れたのは約1万8千人。来場者が感想などを記した備え付けのノートを読むと、小枝さんの思いが京都の人たちに十分に伝わったことを実感した。

福島現状と課題、再生の行方などについて私が同志社の教室の演壇に立ってつたない話をしたのは6月上旬だったが、その2カ月ほど前だったか突然、京都橘中学・高校の先生から編集局に問い合わせがあった。「同志社に来るそうですが、うちの生徒たちに福島状況について生の声で聞かせ、考えさせたい。京都に来るのを1日早めて、うちの学校で講演してもらえませんか」と。菊地昭男先生だった。全く面識はなく、唐突感いっぱい依頼だった。

さすがにその「同志社訪問前日作戦」はスケジュールの面で無理があり、期待に応えることはできなかったが、せつかくの話なので秋にはお邪魔することとした。その間の同校文化祭では生徒会が菊地先生の指導のもと、同志社で使ったパネルや福島民友紙面を展示するなどして、福島について京都橘の若者たちに考えてもらう機会をつくっていただいた。被災地を思い自らを省みようという菊地先生の気持ちは、多くの生徒たちに共有されているようだった。

9月中旬、その京都橘中学・高校を訪問、フェスティバルホールという大変大きく立派な施設で講演した。「大震災・原発事故から3年 福島の復興と若者に期待すること」とのテーマで、1000人以上の中学・高校生の前で話をした。終了後、舞台袖で待機していると、何人かの生徒が質問を持ってやってきた。何百キロも離れた福島での出来事をわがこととしてとらえ、考える生徒たちの姿を見て、胸に迫るものを感じた。

14年3月が迫るころ、「丸3年が過ぎると全国に伝わる、伝えられるニュースが格段に減るのでは」との心配が福島県内にあった。「風化」だ。廃炉にしる汚染水問題にしる原発事故の収束はほど遠いにもかかわらず、その傾向は実際に現れてきた。特に福島から離れば離れるほど、この「風化」の速度は早いように感じられる。そうした中であって、同志社で、京都橘中学・高校で、実情・実態を伝えることができたのは、福島県の地元紙として意義深いものだった。またこのつながり、縁が、今後、福島と京都との間での別の形の活動にもつながっていくだろうことを確信させてくれた。



1000人以上の生徒たちに、大災害に見舞われた
福島の状況などを解説した講演会
(2014年9月19日、京都橘中学校・高等学校)

資料業務

1. 資料整理

同志社社史資料センター網別蔵書冊数 (逐次刊行物は除く)

(2015年3月31日現在)

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	合計	比率
0 総記	1	54	214	36	82	4	41	27	106	1,661	2,226	19.6%
1 哲学	16	8	176	32	25	150	48	21	85	1,410	1,971	17.3%
2 歴史	36	1,085	105	39	0	32	0	0	1,069	219	2,585	22.7%
3 社会	127	162	150	146	9	12	159	1,990	16	24	2,795	24.6%
4 自然	29	22	14	10	10	19	32	23	20	60	239	2.1%
5 技術	11	13	54	9	8	4	5	8	10	15	137	1.2%
6 産業	12	24	1	0	0	2	4	25	10	4	82	0.7%
7 芸術	31	2	83	9	13	23	41	17	24	11	254	2.2%
8 言語	8	74	17	67	9	4	0	2	1	10	192	1.7%
9 文学	31	623	117	93	23	2	0	0	2	1	892	7.8%

※日本十進分類法による分類

総冊数 11,373冊

2. 資料提供(写真資料を中心に)

会津若松市観光商工部観光課

会津若松市

公益財団法人アクロス福岡

株式会社垂璃西社

株式会社ベストセラーズ

千葉県男女共同参画センター

株式会社第一学習社

有限会社ドーエープラス

富士急行株式会社不動産事業部

福島県立博物館

福島民報社

株式会社浜島書店編集部

北海道家庭学校

株式会社星野画廊

一般財団法人池坊華道会

(株) インテリジェント・リン

株式会社KADOKAWA中経出版ブランドカンパニー

株式会社菊池企画

国際基督教大学図書館歴史資料室

金剛株式会社

株式会社光文社

講談社

合同会社浩然社

熊本県立図書館

京都通信社

公益財団法人京都YMCA

まちなか賑わいづくりプロジェクト実行委員会

毎日放送

有限会社メディアラボ

宮崎日日新聞社

奈良教育大学学術情報課

株式会社NEXTEP

NHK大阪放送局制作部

NHKプラネット近畿総支社番組制作センター

株式会社NHKエンタープライズ

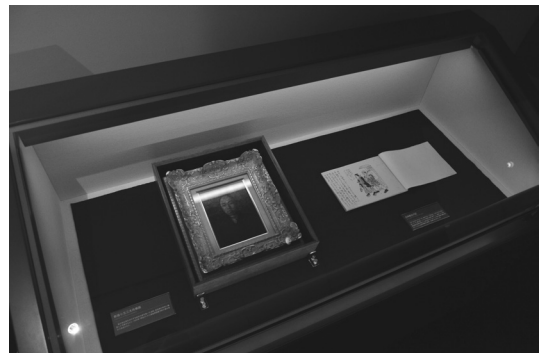
日本文化情報センター

日本赤十字社福島県支部	埼玉県立近代美術館
日本赤十字看護大学	書肆亥工房
日本基督教団霊南坂教会	株式会社素対館会津武家屋敷
株式会社日テレアックスオン	衆議院事務局憲政記念館
帯広市教育委員会帯広百年記念館	虎屋京都ギャラリー
株式会社大入	ワック株式会社
株式会社プラネットライツ	読売新聞奈良支局
歴史春秋出版株式会社	読売新聞大阪本社
特定非営利活動法人歴史文化財ネットワークさんだ	吉野作造記念館
有限会社龍鳳書房	(株)ザ・ピンプロダクション

博物館実習の受け入れ

【同志社大学の「学外実習」受入れについて】

本年度は8名を受入れ、2グループ（第1期8月4日(月)～6日(水)、第2期8月18日(月)～20日(水)）に分けて、毎日3時間の実習を実施した。共通の実習テーマは、ハリス理化学館同志社ギャラリー常設展示に出陳する作品の選定で、第1グループは常設展示室「新島襄 人と思想」、第2グループは常設展示室「同志社のあゆみ」を対象に実習に取り組んだ。実習生らによって作成された企画案は、10月から12月まで常設展示に反映された。



実習生が選定した作品の展示状況

【同志社女子大学の「博物館実習」受入れについて】

本年度は3名の学生を受入れ、8月18日(月)～22日(金)、毎日6時間の実習を実施した。実習では、①施設・設備、②資料展示、③展示教育、④資料収集、⑤資料調査、⑥資料の取扱と保存修復に関する講義と実習指導を行った。また、ハリス理化学館同志社ギャラリー常設展示室の展示替や来館者へのインタビューを含む利用者動向の調査を取り入れた。

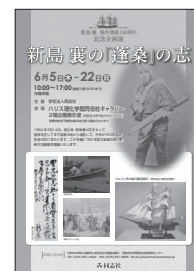
展 示

1. 展示活動

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室

第3回企画展

テーマ：新島襄海外渡航150周年記念企画展「新島襄の『蓬桑』の志」
期 間：2014年6月5日(木)～2014年6月22日(日)
主 催：学校法人同志社
来場者数：3,682人
実施日数：16日



第4回企画展

テーマ：「同志社と絵画」
期 間：2014年7月15日(火)～2014年8月31日(日)
主 催：同志社大学同志社社史資料センター
協 力：同志社大学美術部クラマ画会
来場者数：9,778人
実施日数：35日



第5回企画展

テーマ：「同志社と文学」
期 間：2014年10月15日(水)～2014年12月21日(日)
主 催：同志社大学同志社社史資料センター
協 力：同志社大学図書館
来場者数：13,468人
実施日数：59日



特別展

テーマ：「尹東柱没後70年 福岡・京都・東京 遺稿・遺品巡回展」
期 間：2015年2月13日(金)～2月17日(火)
主 催：尹東柱70周年忌詩碑建立20周年記念行事実行委員会
後 援：学校法人同志社
来場者数：1,789人
実施日数：5日



常設展示室「同志社の今」特別陳列

第2回

テーマ：特別写真展「東日本大震災・原発事故から3年―福島現場を考える」
期 間：2014年3月11日(火)～6月29日(日)
主 催：福島民友新聞社、福島中央テレビ
後 援：福島県、京都府、京都市
協 力：学校法人同志社
来場者数：15,760人(2014年4月1日(水)～6月29日(日)まで)
実施日数：70日(2014年4月1日(水)～6月29日(日)まで)



第3回

テーマ：「松蔭寮50年～第2の故郷(おうち)～」
期 間：2014年9月30日(火)～2014年11月2日(日)
主 催：松蔭寮50周年記念展実行委員会
協 力：同志社大学同志社社史資料センター
来場者数：6,171人
実施日数：28日



第4回

テーマ：「東日本大震災・原発事故から3年半余り 福島現状」
期 間：2014年11月21日(金)～12月7日(日)
主 催：NPO法人ナルク京都「ことの会」
協 力：浪江町役場、
福島市笹谷東部応急仮設住宅自治会まちづくりNPO新町なみえ、
福島民友新聞社、福島民報社、京都新聞社、早稲田大学、高木 成幸、
同志社大学同志社社史資料センター

来場者数：3,200人

実施日数：15日

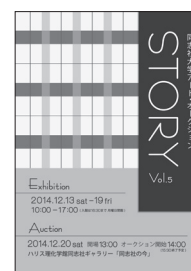


第5回

テーマ：「同志社大学アート・オークション STORY vol.5」
期 間：2014年12月13日(土)～2014年12月20日(土)
主 催：Art Auction STORY vol.5 実行委員会
協 力：株式会社AGホールディングズ

来場者数：1,960人

実施日数：7日

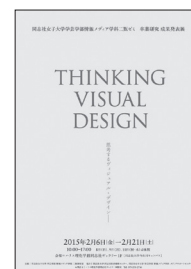


第6回

テーマ：「同志社女子大学学芸学部情報メディア学科二瓶ゼミ
卒業研究 成果発表展」
期 間：2015年2月6日(金)～2015年2月21日(土)
主 催：同志社女子大学学芸学部情報メディア学科二瓶研究室
協 力：同志社大学同志社社史資料センター、
同志社女子大学学芸学部情報メディア学科メディアサポートセンター

来場者数：2,903人

実施日数：13日



2. 展示協力

新島会館への展示協力

「新島八重の生涯」(2014年4月1日～2015年3月31日)をテーマに、新島八重関係資料(レプリカ)と写真パネルを貸出

京都橘中学校・高等学校「橘祭」への協力

京都橘中学校・高等学校で開催された「橘祭」(2014年9月13日)に特別写真展「東日本大震災・原発事故から3年―福島現状を考える―」で使用した写真パネル59枚を福島民友新聞社の許可を得て貸出

株式会社 虎屋への展示協力

虎屋 京都ギャラリー「正宗賞受賞記念 刀匠・河内國平展」(2014年10月7日～10月13日)に、刀・河内守藤原国助造笹丸雪1振を提供

同志社女子大学への展示協力

同志社女子大学史料室第19回企画展示「真実ノ愛心ヲ以テ 同志社女学校、同志社病院、京都看病婦学校」(2014年11月21日～2015年7月31日)へ新島遺品庫収蔵資料6点を貸出

公開講演会・シンポジウム

特別写真展「東日本大震災・原発事故から3年―福島現場を考える」

公開講演会「福島の3年―記者の視点から―」

演 題：第2回「震災、原発事故―今、何が問題か」
講 師：須田 絢一氏（福島民友新聞社報道部記者）
日 時：2014年4月26日(土) 13:30～15:00
場 所：明德館1番教室
参加者：61名

演 題：第3回「福島は再生できるか―事故処理と復興」
講 師：菅野 篤氏（福島民友新聞社編集局長）
日 時：2014年6月7日(土) 13:30～15:00
場 所：明德館1番教室
参加者：100名

ハリス理化学館同志社ギャラリー第5回企画展「同志社と文学」公開講演会

演 題：「小説と学び」
講 師：澤田 瞳子氏（歴史小説家）
日 時：2014年12月6日(土) 13:00～14:30
場 所：良心館地下2番教室
参加者：101名



「福島の3年―記者の視点から―」第2回



「福島の3年―記者の視点から―」第3回



第5回企画展「同志社と文学」

研究活動

機関誌の刊行や第1部門研究(新島研究)の研究会は次の通りである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会 (代表 横井 和彦)

第137回例会	2014年4月14日(月) 『新島研究』105号論評会 「新島襄の持病リウマチズム(Rheumatism)について」 報告者：布施田 哲也 論評者：北垣 宗治 「大久保真次郎の伝道とその性格「独立」と「合同」」 報告者：森田 喜基 論評者：横井 和彦 「大学医学部設置は新島襄の悲願だったのか」 報告者：大越 哲仁 論評者：井上 勝也
第138回例会	2014年5月12日(月) 「新島襄の教育—智徳併行主義と大学設立に賭ける熱意—」 報告者：森永 長壹郎
第139回例会	2014年6月9日(月) 「金森通倫の英文の手紙と自伝」 報告者：北垣 宗治
第140回例会	2014年7月14日(月) 「新島襄と熊本バンドの足跡を辿る～熊本、水俣、阿蘇、柳川」 報告者：田島 繁
第141回例会	2014年8月9日(土) 企画①八重研究第3ステージ「『八重の桜』散る」 報告者：本井 康博 個別発表「上野栄三郎の生涯」 報告者：大井 純一 企画②新島襄海外渡航150周年記念シンポジウム 「新島襄の海外渡航と中濱万次郎」 論者：大越 哲仁 「新島がなぜ海外に脱国したのか？—三冊の文献との出会いを中心に—」 論者：吉田 曠二 「新島七五三太は何故国禁を犯して密航を企てたのか」 論者：井上 勝也 総合討論 北垣 宗治(コーディネーター)、大越 哲仁、吉田 曠二、井上 勝也
第142回例会	2014年10月20日(月) 「新島襄と福沢諭吉の人民観」 報告者：坂井 誠
第143回例会	2014年11月10日(月) 「同志社大学設立義捐金募集運動再考—取扱窓口となった新聞雑誌についてのスケッチ」 報告者：田中 智子

第144回例会	2014年12月8日(月) 「襄脱国に貢献したブラキストン」 報告者：大江 哲男
第145回例会	2015年1月19日(月) 「新島襄の「福祉」思想とその系譜—その源流と水脈」 報告者：木原 活信
第1回読書会	2015年3月9日(月) 「新島襄を語るシリーズ」本井康博著

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第106号 A5判 202頁 2015年2月28日発行

論 叢	八月一日研究会(2014年8月9日開催) 八重研究第3ステージ「八重の桜」散る 新島襄海外渡航150周年記念シンポジウム 新島襄の海外渡航と中濱万次郎 新島はなぜ、函館から国禁を犯して海外に脱出したのか? —『ロビンソン・クルーソー』と新島襄 新島七五三太は何故国禁を犯して密航を企てたのか シンポジウム総合討論 新島七五三太の書状の取次ぎ依頼をするJ.M.Ferrisの手紙 (1867年4月16日 New York) 新島襄の教育—智育、徳育、体育— 同志社ハリス理化学学校設立次第一新島襄と下村孝太郎とJ.N.Harris— 同志社「大学設立義捐金募集運動」再考 —取扱窓口となった新聞雑誌についてのスケッチ— 上野栄三郎の生涯 —実業の世界に乗り出した同志社寺町時代の学生—	本井 康博 大越 哲仁 吉田 曠二 井上 勝也 布施田哲也 森永長壹郎 大越 哲仁 田中 智子 大井 純一
実践紹介	同志社国際学院初等部における「新島先生の時間」	森田 喜基
エッセイ	新島襄の足跡を辿る 中国・四国編 —岡山、高梁、玉島、笠岡、今治、松山—	田島 繁

3. 機関誌

『同志社談叢』第35号 A5判 151頁 2015年3月1日発行

論 叢	新島襄の扮装—女装説と箱館の環境—	竹内 力雄
資料紹介	新収蔵資料から新島襄書簡について 京都国立博物館蔵『近世珍話』翻刻 同志社大学法学部竹本知行研究室内京都幕末文書研究会 (堤 宗男・赤尾 博章・岡部 恒・村上 繁樹・竹本 知行・宮川 禎一【順不同】) 〈新出資料〉石川武美記念図書館成篁堂文庫収蔵大江頼之助宛新島襄書簡に ついて—徳富猪一郎旧蔵資料より 二本松邸に関する史料	布施 智子 石倉 和佳 竹内 力雄

翻 訳	近代化への挑戦	アレクサンドラ・M・コビルスキ 北垣 宗治 訳
目 録	新島襄関連の文献目録 (33)	
	購入資料・受贈資料目録	

4. 刊行物

『同志社大学 同志社社史資料センター報』第10号 (2013年度)
(2014年4月発行)

パンフレット『Harris Science Hall Doshisha Gallery』
英語版 (2014年8月発行)

第172回 新島襄生誕記念会

日時：2015年2月13日(金) 17:00～19:30

場所：同志社新島会館大研修室

表彰

新島研究論文賞	アレクサンドラ・M・コビルスキ(フランス国立社会科学高等研究院日本研究所准研究員)
新島研究功績賞	北垣 宗治(文学博士、同志社大学名誉教授)
	本井 康博(神学博士、元同志社大学神学部教授)

記念講演

演題：十九世紀同志社を再考する

講師：アレクサンドラ・M・コビルスキ(フランス国立社会科学高等研究院日本研究所准研究員)

新島襄生誕記念懸賞論文(2014年度)

【中学校の部】

最優秀賞	竹中 佑樹(同志社中学校1年) 「新島襄とウィリアム・スミス・クラーク」
	立川 真子(同志社女子中学校1年) 「新島襄が伝えることーフィリップス・アカデミー時代ー」
優秀賞	尾崎 光里(同志社香里中学校1年) 「新島襄の生き方一言葉と聖句でたどるー」
佳 作	池田 葵(同志社女子中学校1年) 「新島襄にとってのキリスト教」
	宮本 祐希(同志社女子中学校1年) 「新島襄の女子教育観」

【高等学校の部】

最優秀賞	脇村 喜生(同志社国際高等学校3年) 「新島の国家観ー新島の天皇思想、皇室観をたどってー」
優秀賞	高田 陽菜乃(同志社国際高等学校3年) 「徳富蘇峰と新島襄の深い師弟関係の理由」
佳 作	浅野 李華(同志社国際高等学校3年) 「『オヤジ』と呼ばれた男ー『キミタツには、プロポジションがない!』ー」
	川田 真里亜(新島学園高等学校3年) 「新島襄が育てたい学生とは」

ハリス理化学館同志社ギャラリー

本ギャラリーは2013年11月29日にリニューアルオープンした展示施設である。施設内には6つテーマの常設展示室と1つの企画展示室があり、同志社の歴史と創立者新島襄の今に息づく精神を、所蔵資料を通じて紹介している。

開館時間 10:00～17:00(入館受付は16:30まで)
休館日 日曜日(企画展開催中は開館)、月曜日、祝日、GW、
夏期・冬期休暇期間
実施日数 272日(企画展示室は147日)



2014年度入館者数(2014年4月1日～2015年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総入館者	4,680人	6,165人	4,915人	5,835人	5,623人	3,069人
同志社のあゆみ	5,259人	7,307人	5,955人	3,952人	2,929人	1,404人
企画展示室	3,576人	5,805人	3,682人	3,885人	5,893人	—
京都の中の同志社	3,446人	4,575人	3,529人	4,550人	4,122人	2,408人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5,349人	7,678人	3,867人	1,937人	3,890人	3,901人	56,909人
1,601人	2,259人	1,173人	968人	1,467人	2,242人	36,516人
3,764人	7,137人	2,567人	—	1,789人	—	38,098人
3,135人	3,325人	1,981人	1,523人	2,219人	3,091人	37,904人

新島旧邸

大河ドラマ「八重の桜」放映による見学者の増加を見込んで、2012年9月から2014年3月まで「特別公開」を実施した。「特別公開」終了後、4月から9月まではメンテナンス期間として、閉館し、修繕を行った。その後10月から期間を限定して、公開している。なお、建物の保護のため、従来の見学方法を変更し、通常公開では、旧邸の周囲から建物内部を見学(入場は不可)、特別公開期間のみ、建物内部(母屋1階と附属屋)への入場を可とした。

開館時間 10:00～16:00
通常公開 2014年10月～11月、2015年3月の毎週火・木・土(祝日を除く)
特別公開 秋の京都御所一般公開期間中および11月9日(ホームカミングデー)、
11月29日(同志社創立記念日)、卒業式(3月20日～22日)

2014年度見学者数

10月	11月	3月	合計
1,423人	2,665人	1,151人	5,239人



委員会

同志社社史資料センター委員会委員 (2014年度)

布留川正博	同志社社史資料センター所長	天野 太郎	女子大学現代社会学部准教授
真山 達志	教務部長	伊藤 博子	中学校・高等学校教諭
藤原 耕二	企画部長	瀧 英次	香里中学校・高等学校教頭
吉田由紀雄	事務局長	平松 譲二	女子中学校・高等学校教頭
市川 喜崇	人文科学研究所長	敦賀 昭夫	国際中学校・高等学校教諭
圓月 勝博	歴史資料館長	横井 和彦	経済学部教授
北 幸史	法人事務部長		

同志社社史資料センター運営委員会委員 (2014年度)

布留川正博	同志社社史資料センター所長	市川 喜崇	人文科学研究所長
真山 達志	教務部長	圓月 勝博	歴史資料館長
藤原 耕二	企画部長	北 幸史	法人事務部長
吉田由紀雄	事務局長	横井 和彦	経済学部教授

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会 (2014年度)

山田 史郎	副学長	吉田由紀雄	総務部長
布留川正博	同志社社史資料センター所長	北 幸史	法人事務部長
圓月 勝博	歴史資料館長	石川 立	キリスト教文化センター所長
竹廣 良司	経済学部長	井上 一穂	文学部教授
田口 哲也	文化情報学部長		

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会部会 (2014年度)

布留川正博	同志社社史資料センター所長	布施 智子	社史資料調査員
浜中 邦弘	歴史資料館准教授	上田 遥香	社史資料調査員
若林 邦彦	歴史資料館准教授	井上 一穂	文学部教授
小枝 弘和	社史資料調査員	木谷 佳楠	神学部助教

事務室	所長	布留川正博
	参与 (部長待遇)	高田 芳樹
	事務長	上田 裕保
	社史資料調査員	小枝 弘和
	社史資料調査員	布施 智子
	社史資料調査員	上田 遥香
	契約職員	多賀 晴美
	アルバイト	3名

資料整理	学生アルバイト	22名 (2名で交代勤務)
-------------	---------	---------------

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室		
展示作業	院生アルバイト	4名

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年 2月18日
2012年 2月16日
2013年10月26日
2015年 3月28日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) ハリス理化学館同志社ギャラリーの管理運営に関すること。
- (6) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (7) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (9) その他必要な事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、事務局長、人文科学研究所長、歴史資料館長、広報部長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校から各1名
- (4) 学識経験者若干名

2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。

5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、第3条に掲げる事項についてセンター委員会の要請に基づき、必要な事項を検討する。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が委嘱する者若干名
 - (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附則)

この規程は、2015年4月1日から施行する。

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改正
2012年2月20日改正

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に基づき、同志社社史資料センター（以下「センター」という）が所蔵する資料等（以下「資料等」という）の利用に関する必要事項を定める。

(利用に関する業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に基づく。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長（以下「所長」という）が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めたときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム（DOORS）に登録された図書とする。ただし、禁帯出図書及び逐次刊行物を除く。

- 2 貸出ができる者は、以下とする。
 - ア) 同志社大学学生・教職員
 - イ) 同志社女子大学学生・教職員
 - ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
 - エ) センターが設置する部門研究の参加者
 - オ) その他、所長が特に認めたもの
- 3 貸出冊数および貸出期間は、本学図書館の貸出要領に準ずる。
- 4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会において決定する。

(附則)

この要項は2012年4月1日より施行する。

同志社大学

同志社社史資料センター報 第11号

発行日 2015年4月30日

編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055

<http://archives.doshisha.ac.jp/>

表紙写真：新島襄函館脱出時の扮装の再現姿(1870年頃)